

「巨艦」京浜P、順航裡に帰港近し 年度納めのシンポジウム大盛況



左/
ラウンドテーブル
ディスカッション
の様子
下/
北沢教授あいさつ
右/
シンポジウム
ポスター



そして京浜は続く

野原卓 助手

「都市のエンジンとして日本の100年を支え続けてきた京浜工業地帯のこれからを考える」—まばゆい赤レンガ倉庫の煉瓦色を縫うように白い初雪の舞う2007年1月20日(土)、フラットスラブに日本郵船倉庫時代の残り香漂うBankART Studio NYKにて、一般公開シンポジウム「京浜工業地帯から都市再生を考える—ブラウンフィールドへの提言—」が開催された。

大西隆教授の基調講演「逆都市化時代の工業地帯の変容」で幕を開け、東京大学21世紀COE 京浜臨海部再生アクションスタディチームのプレゼン、金田孝之横浜市副市長、岡部明子千葉大助教授の問題提起と続き、総勢14名によるラウンドテーブルディスカッションと、休む間もなく続く白熱した議論に圧倒される聴衆であった。

京浜プロジェクトメンバー、宋(D2)・伊藤・奥田・筒井・砂川・平林(以上M1)の大車輪の活躍、昼夜問わず動しんだ事前準備、坂内・ポンサン・吉田の緊急サポート、塩沢表紙デザインによる「京浜臨海部再生スタディレポート」は売切御免、A1計50枚に及ぶ怒涛のパネル展示は聴衆の目を釘付け。その結果、観客動員数100名という予想を大幅に超える150名以上の参加者に、横浜の気温も急上昇。シンポジウム後に行われた交流会、そして夜の横浜nigh tへと、冷めやらぬ熱気に、雪は雨へと姿を変えたのであります。



記者の眼

研究室5大プロジェクト中唯一のCOE プロジェクトとして、大きな資金力・社会的発信力を持つとともに、少なからぬ重圧をも背にした京浜臨海プロジェクト。締め切り前の多忙ぶりに立ち会った記者は、M1を中心としたプロジェクトチームの「優秀」としか形容しようがない立ち働きぶりに圧倒された。一方で、研究科あげてのプロジェクトといいながらも、他の研究室の活動と全く独立に、それぞれ、「タコツボ」式に、仕事が進められていくさまに、「学際」への遠い道りを見たような気もした。



text_bannai

斃れゆく締め切り間際の京浜戦士たちに合掌…

ゆきゆきて新宿 —新宿プロジェクトを構造化する—

全体 「総力戦」は「消耗戦」の様相を呈しつつ、年度末「停戦」へ向けて加速度を増している

部位
果てしなき修正スパイラル

「年度内」というおおまかな締め切りの中で、ミーティングが開かれるごとに、フォーマットの更新が行われる。第2クール(四谷区域、落合第2区域)の到達点を第1クール(単筒区域、落合第1区域)に反映し、修正された第2クールの到達点が第1クールに反映され…

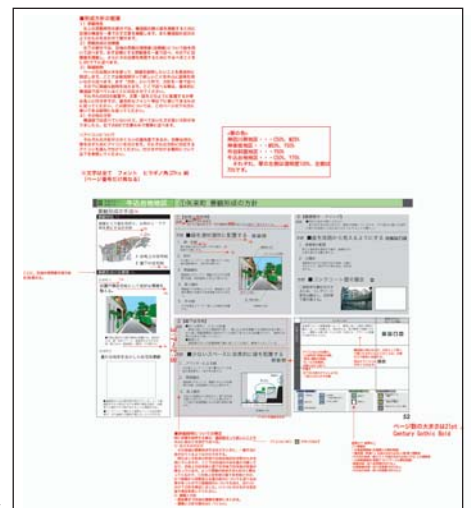
院生「仕事力」の上昇

構造図、資源図、景観形成の方針、の3つを仕上げる中で、地域の資源を悉皆的にピックアップする収集力、諸要素を構造化する構想力、目標像を描く計画力が鍛錬される。成果物は、ただちに就職活動用のポートフォリオに反映され、実益も充分だ。

「都市空間の構想力」へのフィードバック

雑誌「季刊まちづくり」に連載中の「都市空間の構想力」においては、新宿プロジェクトの実りが大いに活用されている。

右/景観形成の方針・フォーマット
フォーマットは更新される毎に、赤字の「説明」が増えてゆく



年度末ジュリ・修士7人、計19人の研究成果

2月5日から7日にかけて、年度末のジュリが行われた。5日は、プロジェクトと就活の合間を縫って研究を進めたM1・9人がまず発表。6日には、博士院生が貫禄の登場。そして、7日、7人のM2院生が修士論文発表を行い、つつがなく修士号を取得した。

修士論文

西原まり「地域資源としての空き家の活用方策に関する考察 - 空き家バンクシステム運営の現状と課題の検証」
 江口久美「上野のにぎわいに関する歴史的考察—各時代の文学から読み取ったハレとケの場のうつろいを手がかりとして—」
 柴田直「工業地域再生マネジメント手法としてのTIFに関する研究—シカゴ市とミルウォーキー市を事例として—」
 鈴木智香子「最小地域コミュニティによる街並みづくりに関する研究—戸田市都市景観条例による「三軒協定」を事例として—」
 早坂勝一「戸建住宅地における住環境の変容と維持に関する研究」
 三沢茂樹「屋外広告物環境の向上に向けた主体間連携の取組みに関する研究」
 楊惠亘「台北市による歴史的建造物の再利用方策に関する研究—台北市文化局所有建造物の事例に見る空間と運営の評価」

博士ジュリ

中島伸「区画整理事業区域を中心とした都市空間の変遷に関する研究—街区構造（路地空間）に着目して—」
 ウィモンラット・ユイ（題目未判明）

博士中間発表

岡村祐「眺望景観の保全に関する研究—我が国における保全施策の体系化と施策の実態」
 韓昊英（題目未判明）
 林崇傑「容積移転からみる都市歴史エリア景観形成メカニズムの研究：台北市迪化街地区の景観再生と都市保全」

M2ジュリ

後藤健太郎「都市図画と都市観の変遷に関する研究—イタリアの中世からバロック期のイタリアの諸都市を対象として—」
 鄭一止「歴史的町並みづくりに関する住民参加システムに関する研究—韓国の事例を中心に—」

M1ジュリ

石井宏典「小豆島・醬の郷のまちづくりの研究 - 登録有形文化財制度を活用した工場施設群保全の事例 -」
 伊藤雅人「都市小河川の課題に関する研究」
 奥田紘子「大規模都市開発によって生み出される公園的空間の公共性に関する研究」
 塩澤諒子「現代の都市空間における「広場」に関する研究」
 筒井直央「米軍接收地とその返還跡地利用に関して」
 横田俊介「夜間景観形成の手法と効果に関する研究」
 吉田拓「旧宿場町の市街化年代と市街化後の空間構造との関連性に関する研究—東京圏におけるケーススタディー—」
 ウィチエンブラティ・ボンサン「日本における常設屋台の展開とその変遷に関する研究（仮）」

お疲れ様会@FU



左/江口久美M2
 右/楊惠亘M2



左/三沢茂樹M2
 右/柴田直M2



左/鈴木智香子M2
 右/西原まりM2
 下/早坂勝一M2



M2 修士論文発表の興奮冷めやらぬ2月7日夜、西村教授を囲んでの「お疲れ様コンパ」が、淡路町Dining&Cafe FUにて挙行された。徹夜つづきの論文執筆から解放されたM2を中心として、約30名が互いに労をねぎらい合う会となった。

野原助手、大誕生祝賀会

手づくりDVDに感涙

1月29日は、野原卓助手32回目の記念すべき誕生日。敬愛する「野原っち」の為に、密かに9月からプロジェクトチームが立ち上がり、祝賀DVDの製作に取り掛かっていた。当日、さり気なく机の上に置かれたDVDを見た野原デスクからは、感激の嗚咽ともとれる声が聞こえた、という。

夕刻からは、バースデーケーキの披露、入刀。今年度に入ってから慣習化し、豪華化の一途をたどるこのイベントは、2月3日誕生日の永瀬D2と合同で祝われ、2つのケーキ、DVD上映、ギター演奏会などのオプション付で過去に類を見ない盛り上がりを見せた。



左/ケーキを前に、野原助手（左）、永瀬D2
 右上/感動のDVD上映
 右中/ネームプレートをばくり！32歳漢の笑顔満開
 右下/余興のギター演奏と合唱

編集後記

text_bannai

私のアピールポイントは、集団の中にあってもその活動の熱狂に呑み込まれることなく、物事の全体像や周囲との関係性を俯瞰しようと試みる批判精神です。『都市デザイン研マガジン』においては、「ババラッチ」との罵声を受ける場面にも遭遇しながら、2年間の記者活動を重ね、研究室活動の全体像を外部に向けて発信するとともに、いわゆる「御用新聞」的なテイストを排した「実像」を内部に提出することを通じて、研究室活動の自己批判的発展に少なからぬ貢献をしてきました。…さて、どこまでか、ホンモノでしょうか？どこまで、ホントでしょうか…？